

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員 会
 洲本市中川原町中川原 28 番地 1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>
 メール
info@hyoufuku.main.jp

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター 二期工事にむけ清掃作業

▶原聖人さんの指導で、汚れの目立った壁もみるみるきれいになった。



現在、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターでは、デイサービスの新設とこのころの家の移転等を予定しています。

そのための改修工事に先駆けて、地域のご理解とご協力のもと、淡路聴力障害者協会の方を中心に、天井・壁の清掃、ペンキ塗装が

改修工事に先駆けて自分たちの手でペンキ塗り

現在、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターですが、淡路市にお住いのろう者で塗装会社にお勤めの原聖人さんの指導のもと、十数名が塗装作業を行いました。

ここがインクルーシブなまちづくりの拠点となることを願いながら、11月初旬までの毎日曜日、作業をしておりますので、のぞきに來てください。

インクルーシブとは障害のある人の社会参加をより一層進めることにより、障害のある人もない人も、すべての人が個人として尊重され、学校や職場、地域社会の中で共にくらし活動できる、すべての人を包み込むこと。

2期工事のデイサービス・おのころの家 完成イメージ図



淡路ふくろうの郷では職員が学びを深めるために、介護職員室だった一室を図書コーナーに整備中です。手話や聴覚障害者の歴史に関する貴重な本、介護に関する本を揃えているところです。関心のある方はぜひ、ご覧ください。

障害の有無に関わらず 交流できる場に

二期工事で計画しているデイサービス事業は地域で生活されている高齢聴覚障害者にとっては長年待ち望んでいた場となります。

聴覚障害者にとって「コミュニケーション」は大きな壁の一つです。しかし、介護保険分野において、今まで淡路島内にはそういった方々が集える場がありませんでした。職員や他の利用者とコミュニケーションが取れない、家庭や地域社会で「孤立」という苦しみを胸にしまいつつながら、まわりに合わせて笑顔を振りまいていた方々の中にはおられたかもしれません。

そういった方々も心の底から笑い合える場となるよう、またふれあいセンター内にあるふれあい広場桜ヶ丘・おたがいさま中川原同様、地域の方々にも気軽にご利用いただき障害の有無に関わらず交流を深めていただける場となるよう中川原町連合町内会はじめ各種団体のご協力のもと準備を進めていきます。

(担当 濱田)

災害時の緊急対応に備えよ、常に！ ～炊き出し訓練～



▲職員一丸となって入居者全員分のごはんとカレーを作りました。

台風や大雨の災害の影響で、断水などの状態を想定した炊き出し訓練が9月12日に行われました。

今回はカレーライスを炊き出し訓練の非常食として作りました。カレー、ごはん、おかゆを炊きましたが、上手く炊けたと思います。

災害が起きた時に、このような食事の方法があることを知ってもらえたと思います。実際に炊き出しをして食事を作らなければならぬ時が来るかも知れません。こうした訓練を今後に活かしたいと思います。

また、炊き出し訓練以外の避難訓練や土砂崩れなどの緊急の対応など事前の準備が大切です。準備を怠らず、あらゆる想定での非常時対応に努めていきます。

薪の提供、炊き出し訓練にご協力頂いた平野俊和様、ありがとうございます。

(防災委員…船越)

自分たちの仕事に新たな気づきを …「県老協」サービス評価事業を受けて

10月4日(金)、一般社団法人兵庫県老人福祉事業協会が実施主体の外部評価を受けました。評価をしてくださる委員は介護福祉士や介護支援専門員、看護師、管理栄養士等、様々な職種の方7名。そして事務局1名の計8名の方がお越しになり、朝の10時からお昼までは、施設長のあいさつに続き、淡路ふくろうの郷におけるサービス評価事業の取り組みを説明しました。

その後職種ごとに分かれ、職種ごとのポイントに基づいて施設内を見学していただきました。午後からは、午前中の説明、施設内の見学を受けて委員とふくろうの郷の職員との意見交換を行いました。

しかし意見交換では、職員が普段行っている仕事の様子についていくつかの指摘をいただきました。例えば「面会」という言葉です。施設内では入居者のもとを訪れる方のことを「面会者」と表現している掲示物がいくつかあります。しかし「面会」とは「病院の面会」のように特別な許可をとって会う場合の表現です。この表現は「入居者のもとを訪れる際にふさわしい言葉ですか」「淡路ふくろうの郷の理念に合ったものですか」との問いかけがありました。そこで私たち職員の行為や発する言葉には意味があり、説明できるものでなければならぬということ、また今行っているサービスは理念に添ったものかというのを考えて行なわなければならないと気づかされました。



(総務…橋詰)

畠さんの 故郷訪問



▶お墓参りをする畠さん

畠ゆり子さんは、いつも生まれ故郷である朝来市への望郷の思いや懐かしさを口にされています。今回ようやく念願の故郷へ行くことが出来ました。

車中は外を見ながら「まだかな？」と到着を待ち望んでおられました。

約3時間の走行で朝来市に到着、まずはお墓参りです。

お墓を綺麗に磨き、ふくろうから摘んで持ってきたコスモスをお供えし、手を合わせておられました。きつとご家族の方々のことを思って、お話をされておられるのだろうなと感じました。

秋を感じる過ごしやすいで、天気にも恵まれ、思い出深い実家の近くの高架橋などを散策することもできました。畠さんは懐かしそうに眺められるなど、大切な故郷で穏やかな時間を過ごすことができたのではないかと思います。

帰りの車内で「故郷へ連れて行ってくれてありがとう」と何度も言葉をかけて下さいました。

ようやく帰郷が実現でき喜んでいただけ本当に良かったと思いました。

畠さんの故郷を思う気持ちを中心を元気にする原動力になっていると感じました。

また故郷に帰れるように畠さんに寄り添い、支援していきたいと思えます。

(生活支援係 石川 富美)

黒崎さんが雑誌MIMIの取材を受けました。特集のテーマは「罪に問われたらどうするかの支援」。黒崎さんが歩んでこられた壮絶な人生が紹介されています。

なぜ、黒崎さんが罪を犯し、刑務所に入らざるを得なかったか、そこには様々な社会環境が影響していることが分かりました。黒崎さんを最初に刑務所に追い込んだ犯罪は、空腹に耐えられないという子供にとつては残酷な実情からでした。

本を読む中で、罪を犯した障害者がどうすれば負の連鎖に陥ることなく立ち直ることができるのか、障害をその人の特性として受け入れ、支え、共に歩んでいく環境が整うことが大切であると学ぶことができました。

経験を生かして



▲アイロンがけをする柴木さん

人生から学ぶ 黒崎時安さん

今、黒崎さんは毎日とても素敵な笑顔で私たちに元気を与えて下さいます。壮絶な人生を歩んでこられたからこそ、今の笑顔があるのだと思います。

皆さんも是非、雑誌MIMI(秋号)を読んでみて下さい。



柴木義嗣さんは高校を卒業してから事故で入院されるまで45年以上、クリーニングの仕事をしていました。

退院後、ふくろうの郷へ入所されました。きれいに掛けられたのでよかったです。足を骨折してしまつたのでクリーニングをやめた。他にあれば僕に教えて。僕がやります」とOKサインを出しながら自信満々に話されておりました。

先日、長年のクリーニングの技術を活かし、ふくろうハッピーと手ぬぐいのアイロンがけをして下さいました。汗だくになりながら、力強くアイロンがけをされ、全部

(生活支援係 足立 達也)

おのころの家



〒656-0025
洲本市本町3丁目1-10
清水マンション1F
TEL・FAX 0799-26-0956

子供の時、大変な人生



平成20年2月、節分の日の為
巻き寿司を作った中井さん

中井幸子さん(80才)

子どものころは戦争の真っただ中。日本が今の生活からは想像もできないような状況の中、中井さんも子どものうちから、働いて、兄弟を養う等大変な苦労をされてきたようです。

口癖は「ごめんよ。」「そうそう。」「何も悪いことしていないのに、2言目には「ごめんよ。」「と言われます。謝るといいうのではなく、「ちよつとすみません。」「というような時も「ごめんよ。」「と言われます。又、話の頭には必ず「うん。そうそう。」「と相づちを打つてから話をされます。大先

輩だけど、とても可愛らしい中井さんです。とても気安く、話しやすい雰囲気を出し出す中井さんです。笑顔が少なく、声もお腹から出して話されるので、怒っている、勘違いされやすいですが、とてもよく気のつく優しい心の持ち主です。

地域のひと

共に生きる

今は、団地で一人暮らしですが、娘さん二人が色々なところへ連れて行ってくれると言われま

送迎していても、「ここも行った。」「ここはおいしかった。」「とかその時のことを話してくださいいます。また隣の住宅に住む年の離れた友人と合図を決めて、支援してもらっています。幸せの黄色いハンカチではないけれど、ベランダにかけた赤とか黄のタオルで中井さんがしてほしい事がわかるらしいです。何かある時には、私に連絡をしてくださる人です。まわりの人と、とてもいい関係づくりができています。

節分とか朝5時に起きて巻き寿司5本巻いたとか…。家の近所の人に頼まれるらしいです。中井さんの回りに対する気配りや優しい心が周りの人を引き付けているのだと思います。

(支援員 藤本)

〒656-0025
洲本市本町7丁目3-41
営業日時：月～金 9:00～18:00
TEL・FAX 0799-22-6133

秋のイベントと

移動販売

暑い夏もやつと終わり食欲の秋になってきました。

パンの移動販売に出かける仲間も夏とは違い完売になり、笑顔で帰ってきます。クツキーも「ふくろうの郷」に見学に来られる皆様が沢山買ってくださったり、プレゼント用にご注文くださるお客様も増えてきました。本当にありがたいことです。仲間も仕込みをするのに忙しくしています。買い置きが少なくなってきた材料をタッピングよく紙に書いて事務机に貼ってくださるので、職員も忘れずに発注ができます。

10月27日は第8回ふくろうふれ愛まつりがあり、今年も桜ヶ丘で販売させていただきます。ピザ焼き体験も予定していますので、オリジナルピザを作ってみてください。12日(土)・13日(日)は「第4回城下町洲本レトロなまち歩き」や「ふ

れあいまつり2013「洲本市健康福祉まつり&社協のつどい」にも出店することになりました。今から気合を入れて準備に取り掛かっていますので、ご来店をスタッフ一同お待ちしております。当日は忙しくなりそうなので販売担当のボランティアさんを募集しています。お手伝いよろしくお願い致します。(職業指導員 岡本)

第4回城下町洲本
レトロなまち歩き

2013年10月12日(土) 13日(日)

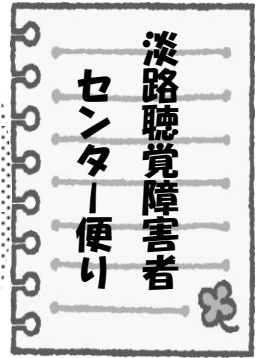
さ 歩 まち な
レトロ

貧困社会は「コミュニケーション」をもと より生活と人生を丸ごと奪う社会②

前回に続き、「続・一人ひとりのような場所として求められていくこと、利用者さんのニーズに合っていることで、話したい時に聞いてくれる人がいる事が大切だと思っています。伝達方法も様々ですが、嬉しかった事、困った事、怒った事、色々共有してほしいという気持ち溢れていきます。一緒に共有できる人がいてこそ生きていて幸せだと感じるのだと思います。また加齢に併せた日中活動の位置づけと見直し、暮らしの場では、高齢者や状況にあわせた環境、より個人の自由な過ごし方を保障する必要があります。そのために生活介護等における個別支援プログラムや利用者が新たな目標をもってできる支援内容の需求が求められています。

おのころの家では、利用者の方達がどのような理由で利用していただいているのか考えてみて、当所に着くなり、職員の所に来て話し始める人がいます。伝えたい事があり、伝えたい人がいる、聞いてくれる人がいるという事だと思えます。一人暮らしの人や、家族と一緒に暮らさなかな話のできていない人が多いためです。当所に来て色々な話をされるのは、おのころの家がそ

(橋詰)



洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

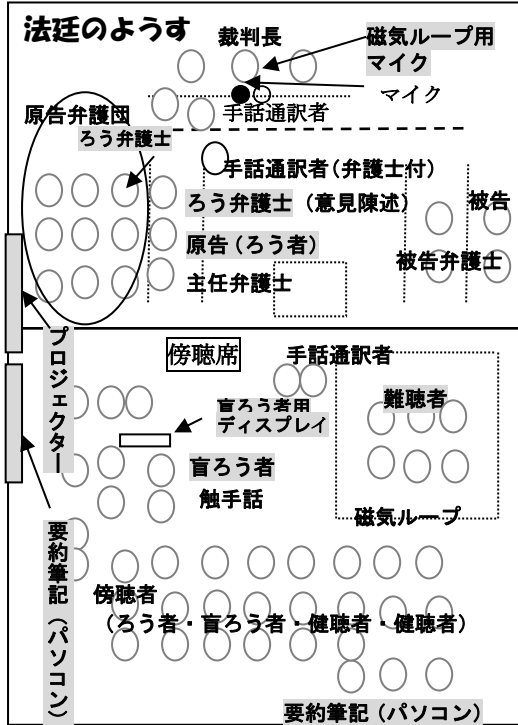
いつでもどこでも
手話通訳を

高松市手話通訳派遣拒否
違憲訴訟裁判を傍聴して

9月30日、高松市に住む聴覚障害をもつ池川さんが、娘が進学を希望する東京の専門学校保護者説明会に出席するため、手話通訳派遣を高松市に申請しました。しかし「市外派遣」「参加する必要性が乏しい」等の理由で却下され「ろう者のコミュニケーション支援を受ける権利を侵害された」として、却下処分取り消しを求め裁判を起こしました。

法廷での情報保障の改善

今回の裁判では手話を言語とする原告やろうの弁護士、手話を解せない被告、裁判官、弁護士、傍聴者など伝達手段が異なり、法廷における情報保障も大きな課題となっていました。が、弁護団や



この裁判は、改正障害者基本法で「手話」が「言語」とされる社会になることを切望します。(辻)

生活のあらゆる場面で
地域格差ない派遣を

支援団体の取組によって左のろう者、手話関係者が注目のような伝達システムが目している裁判です。国は、実現したことは注目すべき手話通訳派遣事業は市町にです。ただ、情報保障に要する費用が訴訟費用に入るとい実情を踏まえ、3月に派いうことで、まだ国が公費で遣モデル要綱を示し補償するという段階には至た。それには合理的配慮をうておらず、今後の課題となしなことを禁止することについているところです。

生活のあらゆる場面で、地域格差ない派遣を、延のみならず、「どこ」でも、約が大きく社会を変えていくことが期待されます。法

☆手話通訳者目指して

ブラッシュアップ講座①開催
8/20~10/8

全国手話通訳者統一試験対策の一環として講座を開催しています。17名が参加し、平松講師の指導のもと、読み取り、手話表現など技術アップに取り組んでいます。毎回宿題も出され、気持ちを引き締め真剣に取り組んでいます。



☆みなさんの意見を
反映した事業を

登録手話通訳者・要約筆記者実務者会議 (9/17)

センター事業について説明のあと、みなさんから、聞こえない方への理解を深める事業や防災への早急な取り組みについて活発な質問や意見をいただきました。今後の事業の参考になることも多く、計画に反映していきたいと考えています。

☆入居者から
生き様を学んで・・・

手話奉仕員養成講座受講者
淡路ふくろうの郷見学 (9/24)

入居者自治会会長の黒崎さんや竹邊さん、土居さんのお話を聞かせてもらい、感動と元気をもらったとの感想も。施設長さんからは、疲れた時はふくろうの郷にきて入所さんとふれあい、癒してもらって下さい、との言葉も。手話技術以外の大事なことを学びました。



続・地域を語る

第58号

村のエピソードその1 後家のワラ屋根

むらのあるところに、独身の「およし」という60歳余りの後家さんが住んでいました。

時は文久2年(一八六二)8月15日、夜の暴風雨に2間(3・66坪)に3間(5・5坪)の住居のワラ屋根が吹き飛ばされた。

独り者だからどうすることもできず思案なげ首で困っていました。

そこへ隣の「おさと」という頓智の良い娘さんが見舞いに来ました。

吹き飛ばされたワラ屋根を見ながら考え込んでいました。しばらくして「およしさんや紙と筆を貸しておくれ」何を思いついたのか「おさと」さん、紙と筆を手にするなり、何やらすらすらと書きつけました。

そして「およしさんや、これを五人組のAさんのお家へ持って行ってごらん」と手

渡しました。

受け取った「およし」さん、まずは言われたようにAさん家へ行って手渡ししました。

この書付を読んだAさん「それはそれはお気の毒なことで。私は米一斗(15kg)をあげるから、いつでも取りにきておくれ」との、ありがたいお心ざしであった。

次は5人組のBさん家へ向かって同じように書付を渡しました。

読むなりBさん「さてさてそれはお困りのこと、ワラと縄を明日お届けしましょう」とのお話。

このことを「おさと」さんに話しをすると「おさと」さん「今度は庄屋さんのお家へ持って行ってごらん」とのことであった。

庄屋さんのお家へ行きながら「およし」さん「いったい何をかいてあるのか不思議なものだなあ」

「庄屋さん庄屋さん、これ読んでおくれ」と手渡した。

庄屋さんはその書付を見て「本当にお気の毒なことだ：屋根ふき屋さんの費用は私方で引き受けてやる」とのこと。

踊りと太鼓の響きを 共に楽しむ機会に みはる会(楽会)

9月17日、「楽会」のメンバー5名の方が来所され、踊りと太鼓を披露してくださいました。

最初に踊りとダンスがあり、次に太鼓を披露してください、みはる会の皆様のご厚意で、実際に太鼓に触れる時間もとっていただきました。

「耳の不自由な方には踊りよりも太鼓の方が喜んでもらえるだろう」ということで太鼓の時間

そしてまもなく吹き飛ばされた屋根はキレイサッパリ新しく葺き替えが出来上がり在所中の評判になったという。ところが、村中の人達はいったい何を書いてあったのか、「おさと」の書付が見たくなり無理矢理に見せてもらったところ

一家(家族のこと)二間三間のワラ屋根を四間(暴風雨)に取られて五間(後家)が困惑

※地方紙の計研究 中川原村史より引用

いつもご支援ありがとうございます



4月にお亡くなりになった井上知子様のお弟、井上俊治様がお作りになったステンドグラスを、姪の大橋正子様を通じていただきました。1階エレベーター前で柔らかな光を放っています。

作品紹介



「秋 楽しく」

▲勝楽佐代子さん(84歳)と北風章子さん(83歳)



ふくろう大学
絵手紙講座
9月26日

を長くとるなど、ふくろうの郷に合わせた配慮をしてくださいました。



▲太鼓に挑戦! 102歳の寺岡さん

踊りや太鼓を見られた入居者の皆さんも太鼓はお腹から音

が響くようで大変喜ばれました。また、太鼓や鉦(かね)に触るときは笑顔が多くみられ、本当に楽しそうな様子でした。
「楽会」のメンバーの中には入居者のご家族がいらつやいます。また、いつも淡路ふくろうの郷を応援してくださいさる地域交流会のご友人もおられます。いろいろなご縁でつながった皆さんに支えられていることを改めて感じたひと時でした。
(事務 竹内マリ子)